

■乳がん圧着はがき_W297×H152mm(仕上がりW104×H152mm)_外面_180126

部分はテキスト可変部分となり、未アウトラインです。

変更箇所のない中面は、すべてアウトラインをかけています。

表1_96.5mm

P5_104mm

P6_96.5mm

152mm



転送不要

マンモグラフィはこんな検査です。

マンモグラフィは、 いわゆるおっぱいの レントゲン

プラスチックの板と撮影台に乳房を挟んで上からレントゲンを撮ります。



5秒くらい、じっとして…撮影終了！

1cm以下のがんも見つけられる 優れた画像検査法

マンモグラフィは、乳がん検診方法として効果があることが確認されている検査法で、早期乳がんの検出に有用です。

検診で「異常あり」となった場合は
その後必ず精密検査を受けてください。^{※1}

精密検査はマンモグラフィの追加撮影、超音波検査、
細胞診、組織診などで、これらを組み合わせて行います。

※1 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合もあります。

この圧着はがきは、国立がん研究センター希望の虹プロジェクトが作成しました。

乳がん検診の流れ

Step 1. ☎ 実施医療機関に直接予約

以下リストをご覧ください。

受診曜日や時間帯、女性医師による検診の提供など、
詳細は各医療機関にお問い合わせの上、
ご都合にあった医療機関に直接ご予約ください。

Step 2. + 受診

医療機関で、保険証を提示。
受診費用を支払い受診。

問診 自覚症状等についてお聞きします
マンモグラフィ 乳房のレントゲンを撮ります

検査結果は後日郵送にてお知らせします^{※2}。

実施医療機関一覧

〇〇町	〇〇〇〇医院	000-0000
〇〇町	〇〇〇〇病院	000-0000
〇〇町	〇〇〇〇健診クリニック	000-0000
〇〇町	〇〇〇〇クリニック	000-0000
〇〇町	〇〇〇〇総合病院	000-0000
〇〇町	〇〇〇〇クリニック	000-0000
〇〇町	〇〇〇〇乳腺クリニック	000-0000
〇〇町	〇〇〇〇病院	000-0000

※2 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

40歳を過ぎたら 乳がん検診

〇〇市 福祉保健部 健康推進課

OPEN

■乳がん圧着はがき_W297×H152mm(仕上がりW104×H152mm)_中面_180126

部分はテキスト可変部分となり、未アウトラインです。

変更箇所のない中面は、すべてアウトラインをかけています。

表4_96.5mm

P2_104mm

P3_96.5mm

152mm

今年度は、〇〇市より
0,000円の助成*があります！

今年度の助成対象の方

乳がん検診(マンモグラフィ)は助成がない場合、一万円を超える高価な検査ですが、市の検診を受けると約0,000円の助成が出来ます。(自己負担金0,000円)

検査費用	約〇〇〇〇円
一助成金	約〇〇〇〇円
自己負担金	0円

*現金が支給されるわけではありません。

今年度の受診期間は、令和00年00月00日まで

例年、受診期限が近付くと大変混み合います。お早めにご予約・ご受診ください。

〇〇市 福祉保健部 健康推進課
〒000-0000 〇〇市〇〇町0-00-0健康会館内
電話 | 000-000-0000 FAX | 000-000-0000

OPEN

POSTCARD

近年、日本人女性の10人に1人が
乳がんにかかると言われてます*1

乳がんは女性が一生のうちで1番かかりやすいがんです。

誰がなっても
おかしくない
ですよ



セルフチェック
だと遅いかも…



乳がんは40~60代女性の
がん死亡原因ナンバーワン*2

日本では、年間約1万4千人以上の
女性が乳がんで亡くなって
います。

自己触診では見つからない
ケースがたくさんある

早期発見のためにはマンモグ
ラフィによる検査を定期的
に受けることが大切です。

*1 出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」2015年全国推計値

*2 出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」
人口動態統計(2018年)

乳がんは早期発見で95%以上が
治癒します*3

正しい知識を持って、専門の先生と一緒に定期的に
チェックしていくことが大切です。

5年相対生存率



乳がん検診は2年に1度
必ず受診して下さい

多くのがんは、2年に1度の検診で早期発見で
きます。ただし、中には急激に大きくなるものも
あるため、しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血
性の液がでる、乳頭の湿疹やただれなどの症状
がある場合は次の検診を待たずに病院へ行き
ましょう。



*3 ここでいう「治る(=治癒)」とは、診断時からの5年相対生存率です。
相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。
出典：全がん協加盟施設における5年生存率(2009~2011年診断例)